

すぎなみ大人塾総合コース GENERATION LAB —コノ時代ヲ解説セヨ—

第4回 公開講座「インターネット検索の上手な使い方」

ゲスト講師：金谷武明氏（グーグル合同会社）

平成29年7月19日（水）午後7時から9時 於：セッション杉並視聴覚室

コース学習支援者 （株）アソボット 伊藤 剛代表取締役

補助者 NPO法人場とつながりラボhome's

丹羽 妙ファシリテーター

学習支援者 伊藤剛（以降、（伊藤）と表記する）

膨大な情報量の中から、自分が知りたいことを知るにはどうしたらよいか。

第4回の本日は、講師に金谷さんを迎え、検索やネットのいろはを学びます。

ゲスト講師 金谷武明（グーグル合同会社）（以降、（金谷）と表記する）

日常の業務では、ホームページを持っているウェブ制作者向けに検索の結果について話すことが多く、ユーザーの方に検索の仕方についてお話するのは初めてです。

どの検索エンジンでもいいのですが、今日はグーグルという検索サイトを使ってみましょう。「斜め」を検索してみると、検索結果が斜めになっていませんか？「一回転」と検索すると、検索結果が一回転します。グーグル検索には、こうした小さな遊び心が込められています。

なんとなく検索を使っているけど仕組みはよくわからない、という方が多いと思うので、まずは検索の仕組みについて簡単にお話しします。グーグル検索は、サイトを訪問して情報を集めてくる仕組みである「クロール」と、集まった情報に索引をつける「インデックス」という作業を行います。つまり、情報の整理です。検索をしたとき出てくる情報は、インターネット上にある情報を整理したものの中から提供されている情報です。間違った情報を訂正した時に、検索結果に反映されていないことがあるのは、訂正箇所を確認するためのクロールがまだ行われていないためです。次に、検索結果の見方についてです。検索をすると、ページのタイトルとサイトのURLが出てきます。その下に、検索したキーワードに関連する文章（スニペット）があり、検索した言葉が太字で表記されます。

検索結果を選ぶ時、上から順番にタイトルを見て、探している内容に近いものを選ぶ方が多いと思います。私は、URLをまっさきに見ます。URLには、探している情報と合致しているかどうかを判断するヒントがあります。「すぎなみ大

人塾」で検索すると、上位に「すぎなみ大人塾」に関連するページが表示され、URLは

「<http://www.city.suginami.tokyo.jp/kyouiku/shogai/otona/index.html>」となっています。URLに「www.city.suginami.tokyo.jp」とあるため、杉並区の公式サイト内のページであることがわかります。URL内にある「/」は「スラッシュ」と呼び、サイトの中の階層をわけているものです。さきほどのページは、「/kyouiku/shogai/otona/」と続き、教育、生涯、大人、という分類を確認することができます。これらの情報から、すぎなみ大人塾に関連するページだと確認できますので、信頼できるサイトであるとわかります。また、ドメインに気をつけるだけで、信頼できるサイトか否かを判別できます。URLの中に「.com」「.co.jp」「.net」といった文字列がありますが、これをドメインといいます。「.com」といったドメインは、商用で誰でも使えるものとして提供されています。ですが、「.edu」をえるのは学術機関のみです。また、「.co.jp」は登記している会社しか使えません。こうした情報を頭に入れながら検索結果でURLを見てみましょう。

（伊藤）私も検索した時に、情報を見つけた気持ちになって、出てきたサイトをそのまま見てきました。最近「.tv」というドメインが流行っています。ツバルという国が観光政策の一環として始めたのですが、今は動画に関連するサイトが使うものです。このようにドメインから内容を推測することもできます。

（金谷）URLを見る癖が出来たら良いですね。検索方法は色々あります。音声検索では、文字で打つには長い文も音声で検索でき、音声で天気や自宅までの道のりを教えてくれます。その他には、「マイナス検索」「フレーズ検索」「特定のサイト内の検索」があります。マイナス検索とは、検索結果から、特定のキーワードを含むページを除外したい時に使います。半角でマイナスをつけて検索すると除外できます。フレーズ検索は、ある特定のフレーズを、そのままの語順で検索したいときに使います。半角の「“ ”」（ダブルクォーテーション）で検索したい言葉を挟むことで、限定できます。最後は、特定のサイト内の検索です。「金谷武明 : [site.http://www.suginamiku.tokyo.jp](http://www.suginamiku.tokyo.jp)」というように検索したいキーワードに「: (コロン)」をつけてurlを入力します。この3つの検索方法は組み合わせられます。また、画像で画像を検索することもできます。検索の「ツール」で日時や言語を指定できます。例えば、熊本地震の際に出回ったデマ画像も、地震発生以前にさかのぼって、画像を検索してみると、全く関係のないヨハネスブルグでの写真が出てきます。過去のサイトを流用していることがわかります。こういったことがデマにだまされない工夫

になります。言葉で説明しづらいものや、イメージしている画像を探すと、出てくることがあります。

《参加者からの質問と金谷さんのご回答》

・今回教えていただいた検索方法は、グーグルだけしか使えないのでしょうか。各社の検索エンジンで大きな違いはありますか？

→検索エンジンごとに検索方法の違いなどがありますが、基本的にはどの検索エンジンでも同じ様に考えることができると思います。

・便利な機能はありますか？

→マイナス検索はいろんな場面で使えて便利だと思います。

・検索だけで、論文はかけるのでしょうか。

→ネット上で提供されているどの情報が正しくて、論文にふさわしいかは分かりません。検索結果を見極める力が必要だと思います。

・嘘の情報を見分ける検索方法はあるのでしょうか。子供たちに、この情報は正しいかどうかを伝えるにはどうしたらよいのでしょうか。

→画像がついているものであれば、画像検索します。情報を探す時には、まず一次情報をさがすのが基本です。検索結果の上位を信じるのではなく、まずはURLを見たり、何を探そうとしているのかを意識しながら検索することが大切です。次に、一次情報の持ち主を考えること。子供たちには、この2点を教えてあげてください。どんなキーワードをいれるのかではなく、どんな情報を探しているのかイメージすることが大事です。

（伊藤）10年後、更に情報は増えているはずですが。その中で、たどり着きたい情報にたどりつくには、自分なりの探し方を学ばないといけないと思いました。若者よりもネット以外の情報の探し方を知っている大人の方がほしい情報にたどり着けます。ネット検索のステップを自習すると、自分の情報を探す癖がわかります。次回の講座では、リアルな検索の場・図書館を調べ尽くしましょう。